

佐世保市俵ヶ浦半島における 軍遺構のトレイル観光への活用

榎本碧¹・樋口明彦²・佐藤直之³・富田柚香子⁴・竹林知樹⁵

¹正会員 九州大学 景観研究室（〒819-0305 福岡県福岡市西区元岡 7 4 4）

E-mail: midori@doc.kyushu-u.ac.jp

²正会員 九州大学 景観研究室（〒819-0305 福岡県福岡市西区元岡 7 4 4）

E-mail: midori@doc.kyushu-u.ac.jp

³非会員 株式会社ルーツ・アンド・パートナーズ（〒810-0054 福岡市中央区今川 1-25-18-201）

E-mail: sato@roots-is.me

³非会員 TMTY（〒857-0402 佐世保市小佐々町小坂 49-1）

E-mail: c.junoszen@gmail.com

⁵非会員 竹林知樹スタジオ（〒819-0305 福岡県福岡市西区元岡 7 4 4）

E-mail: contact@tomokitakebayashi.com

佐世保市俵ヶ浦半島には明治時代に建設された砲台等の遺構が残っており、近年、保全や地域住民主体のトレイルづくりにより観光活用が行われている。地域住民らの関心は高まっているが、認知度はまだ低く、海軍遺構の保全もなされていない。本報告では、海軍遺構の保全という観点からこれまでの俵ヶ浦半島でのトレイルづくりの取り組みを評価するとともに、今後の海軍遺構の観光活用のあり方について考察する。

Key Words: Sasebo, heritage, conservation, tourism, trail, walking, regional development

1. 背景と目的

佐世保市俵ヶ浦半島は、九十九島と佐世保湾に挟まれ、山がちな地形のなかに集落や農地、漁港などが点在し、風光明媚な地域である。また、かつては軍港として栄えた佐世保を外敵の侵入から守るために多数の砲台や観測所が置かれていた場所でもあり、それらの殆どは今日も往時の姿を留めた歴史遺産として現存している。

写真-1 に俵ヶ浦半島に現存する丸出山砲台観測所跡を示す。

近年、こうした遺構をたずねて、人々が俵ヶ浦半島の最南端にある俵ヶ浦町を訪れるようになった。しかし、遺構周辺の荒廃や樹木による眺望阻害などの問題や、来訪者の中には道に迷う人や誤って民家に入ってきてしまう人、さらには車で細い生活道路に入り込んで離合できなくなってしまう人などの問題も生じてきた。一方、人口減少、少子高齢化の進む俵ヶ浦半島地域では、地域活性化に活用できないという地域住民らの機運が高まった。

俵ヶ浦半島では平成 25 年から俵ヶ浦町、庵浦町、下船越町、野崎町の地域住民が中心となり、佐世保市や佐世保市観光コンベンション協会、九州大学景観研究室の支援を受け、こうした遺構を取り入れた

トレイルルートを整備し、誘導サインの設置やマップの配布、トレイルを活用したウォーキングイベントを開催している。

本稿では、これまでに行った俵ヶ浦半島の砲台等の遺構のトレイル観光活用について整理し、今後の取り組みに向けた課題を明らかにする。

2. これまでの取り組みの経緯

表-1 に、これまでの取り組みについて整理した。平成 24 年、砲台等の遺構の残る俵ヶ浦半島の俵ヶ浦町においてトレイルの造成が開始した。その後、同じ俵ヶ浦半島の庵浦町、野崎町、下船越町でもトレイル造成を行った。一方、これらの 4 町が合同で設立する俵ヶ浦半島開発協議会は、8 年前から 10 月と 3 月の年 2 回、半島においてウォーキングイベントを開催している。

平成 28 年 10 月 16 日の第 13 回コスモスウォークでは丸出山砲台観測所跡をコースに取り入れた。このイベントにおいて九州大学が中心に参加者に対するアンケートを実施した。

図-1 に第 13 回コスモスウォークイベントのちらし、図-2 にウォークイベントのコースマップ、写真-2 に当日の様子を示す。また、写真-3 に平成 24 年および 25 年に設置した誘導サインを示す。

次章では、このウォーキングイベントにおける参加者へのアンケート調査について整理する。

3. ウォーキングイベント参加者へのアンケート調査

平成 28 年 10 月 16 日に開催した第 13 回コスモスウォークにて、ウォーキング参加者へのアンケート調査を行い、ウォーキングコースについての評価を行った。

アンケートは対面聞き取り式で行い、調査内容は回答者の属性、ウォーキングイベントの参加回数、コースの評価および改善点である。

表-2 にアンケート回答者数および当日のウォーキング参加人数を示す。ウォーキング参加者は 172 名、アンケート回答者は 27 名であった。また、当日のスタート地点である展海峰の来訪者数は 421 名で、悪天候のため例年に比べてウォーキング参加者も展海峰の来訪者数も少なかった。

アンケート結果を図-3 から図-8 に示す。

回答者の属性は、男性 7 割、女性 3 割、年齢別では、60 代が 41%と最も多く、50 代、30 代が 15%であった。また、俵ヶ浦半島の 4 町内からの参加者が 15%、半島以外の佐世保市内からの参加者が 70%を締めていた。

ウォーキングイベントの参加回数は、2 回目以上が 16 件 59%、初めての参加者が 11 件 41%であった。

それぞれ、ウォーキングコースについての評価は、リピーターは良かったが 55%、悪かったが 17%、どちらともいえないが 28%であった。これは、それまでのコース設定に比べて一部傾斜のきつい部分があったためが大きな理由であった。また、トイレや休憩所などが少なかったことなどがあげられる。

初めての参加者は、良かったと回答した参加者が 89%であった。観測所跡は半島で最も高い場所にあるため、そこから九十九島を望む景色に対する評価が高かった。

またコース上に設置している誘導サインについてはきちんと機能していることがわかった。

4. 軍遺構の観光活用に向けた課題

自由記述アンケート調査の結果から見えた俵ヶ浦半島の軍遺構の観光への活用の課題として以下の点が上げられる。

- ・ スタート地点の展海峰から砲台跡へ向かうルート上は歩道がなく、歩行者は路側帯を通行する必要があり安全面の課題がある。



写真-1 丸出山砲台観測所跡

表-1 これまでの取り組み

年度	取り組み
H24	サイン設置
H25	トレイル造成(俵ヶ浦町)
H26	トレイル造成(庵浦町)
H27	トレイル造成(野崎町、下船越町)
H28	ウォーキング参加者アンケート調査実施
	日本遺産の指定
	トレイル部(地域住民によるトレイルの活用や管理を行う団体)の設立
	観光モニターツアーの実施



図-1 ウォーキングイベントのチラシ



図-2 第13回コスモスウォークイベントのマップ



写真-2 ウォークイベントのスタート直後の様子

表-2 アンケート回答者数

アンケート回答者数	27
ウォーキング参加者	172
展海峰来場者数	421

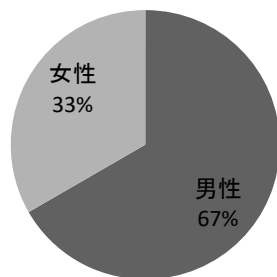


図-3 アンケート回答者の性別

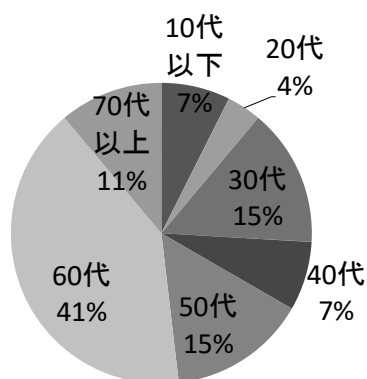


図-4 アンケート回答者の年代

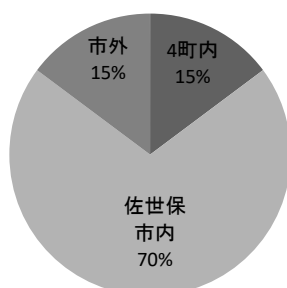


図-5 アンケート回答者の居住地
(町内：俵ヶ浦半島の4町内居住者)



写真-3 コース上に設置されている誘導サイン
写真下側の土留め右端に設置されたプレート上のも
のが平成 24 年に設置したもの、写真中央の木柱に
つけられたサインが平成 25 年に設置されたサイン。

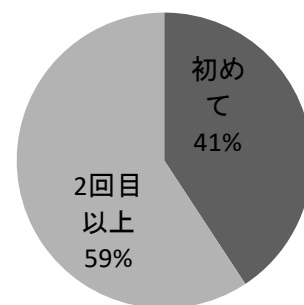


図-6 参加回数

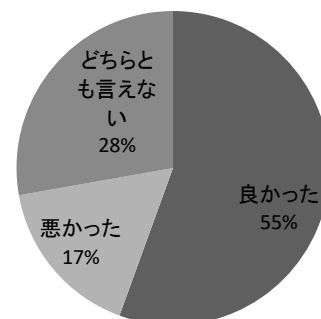


図-7 コースの評価（リピーター）

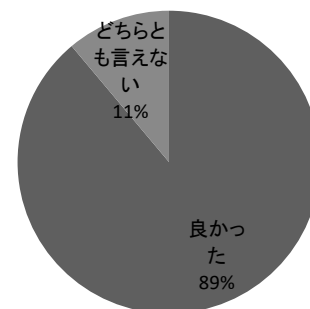


図-8 コースの評価（初参加）

- ・ 春から秋にかけて沿道の雑草が伸び路側帯を覆い隠すため、地域に住民による定期的な草刈りなど維持管理の負担が増加が課題である。
- ・ コース上の眺望を確保するために樹木の伐採が必要である。西海国立公園にかかるエリアもあるため、地域住民で管理していくにあたり、専門家の助言も受けながら伐採計画を作成し実施することが必要となる。
- ・ 丸出山砲台観測所跡や堡塁等の遺構についての説明を希望する参加者が多かった。眺望や自然環境と比較すると地域の歴史については目に見えないため、説明の配布、看板の設置やガイドツアーなどの工夫が必要である。

5. まとめ

本研究では俵ヶ浦半島の軍の遺構をトレイル観光に活用について、トレイル利用者に対する調査から課題について整理した。俵ヶ浦半島の場合、遺構だけでなく周辺の自然環境、利用者のための休憩所などの施設が全体の評価に繋がっていることが明らかになった。また、歴史的遺構を活用することについては、建造の経緯だけでなく地域の歴史などの一見して目に見えない情報の充実がウォーキング参加者の評価につながると考えられる。

謝辞：俵ヶ浦半島の地域住民のみなさま、俵ヶ浦半島開発協議会のみなさま、コスモスウォーク参加者のみなさまにはご協力感謝申し上げます。